

	種別	意見	協議会における担当課の回答	課題解決に向けた方向性や取組内容	令和6年7月末時点での進捗	令和7年2月末時点での進捗
1	障がい児から障がい者への移行 【令和5年度第1回協議会】	【繁治委員】 障がい児・者連携にあたって、スムーズな移行に関する協議を進めてほしい。 【野口委員】 在学中は学校が中心となり手厚い支援体制があるが、支援者と繋がらない、繋がっていない方は卒業後はどこが中心となるかが不明確である。	幅広に意見交換できる場を設定する方向で、プロジェクトチーム等、協議の場について、関係機関で検討する。	障がい児・障がい者における関係者による意見交換の場を設け、今後の展開について整理する。	令和6年3月25日に意見交換会を行い、（資料3参照） 令和6年7月31日に意見交換会開催（口頭にて詳細説明）	令和6年11月に就労移行支援事業所、就労継続支援B型事業所、生活介護事業所に対して、「支援学校からの受入れに関する実態調査」を行った。 次回（日程調整中）で、最終のまとめに向けて意見交換会を実施予定。 まとめのイメージとしては、フロー及び分岐点ごとの各関係機関の役割を確立し、関係事業者等へ周知するものである。
2	包括ケアシステムの構築（精神） 【令和5年度第1回協議会】	【明石委員】 地域移行部会の退院促進について、ピアサポーターの役割を、退院促進のみではなく、障がい特性に関わらず、当事者として活躍できるものにすればよいのではないかな。		地域移行部会において取り上げていく。	地域移行部会において、ピアサポートコーディネーターの方から意見聴取を行った。	引き続き検討していく。
3	事業者が主体となって、サービスの質向上を目指した基盤整備を進めていける体制づくり 【令和5年度第3回協議会】	【清水委員】 地域を基盤とした相談支援体制をつくり、事業者の「地域を見る目」を育て、個別の支援から地域の支援へと目を向け、他事業者との連携・協力の中で、各々が支援の質向上を目指すような仕組みとして、事業所が運営主体となる相談支援事業所連絡会を実施してほしい。		相談支援部会を中心に、事業者の主体性を高める仕掛けを行う。事業者から吸い上げた課題をもとに、他サービス事業者との連携やサービスの質の向上のための勉強会など、必要な取組みが何なのかを事業者が考え、企画し、進めていけるように、運営手法の見直しを行う。	検討中	今年度、機能強化型サービス利用支援費取得事業者の役割について整理を行い、相談支援体制の充実に向けて、相談支援事業者が主体的に参画する体制について意見交換を行っている。相談支援体制の充実に関する取組みや相談支援部会以外の専門部会への参加及びその他基幹相談支援センターが行う取組みに対する積極的な協力もそのひとつとして挙げられている。 2月に実施したプロジェクトチームの取組み「サービス管理責任者等研修フォローアップ研修」では、担当者会議のロールプレイングに機能強化の事業所が相談員役として参加するなど、運営に協力を得た。次年度も各部会同士連動しての取組みや事業者主体の企画・実施について、しかけを行っていく予定。
4	各部会の連動性 【令和5年度第3回協議会】	【繁治委員】 和泉市内の就労系サービス事業所が多くなってきており、その事業所すべてを計画相談員が把握することは困難である。そのため、就労系サービス事業所からも情報を発信できる取組みとして、以前実施したような就労支援部会と相談支援部会がコラボし、情報交換できる場が必要である。		相談支援専門員が就労支援事業所に対し求めること（知りたいこと）、また就労支援事業所が情報交換のポイントとするところを各部会代表を中心に整理し、内容をすり合わせの上、企画・実施していく。	検討中	
5	ココスル等の発信 【令和5年度第3回協議会】	【繁治委員】 ココスルをより地域に向けて、周知してほしい。 【山本委員】 就労継続支援B型事業者が提供している物販や役務提供を市民の方に知っていただくような取組みを検討してほしい。	ココスルに事業所が提供できることを載せている。しかし、より多くの人に見ていただけるように周知していく必要があると感じている。	ココスルに、障がい福祉サービスや制度だけでなく、地域のインフォーマルな資源等も掲載されていることを地域住民に周知していく。 また、就労継続支援B型の物販や役務提供についても地域住民に周知していく。	和泉市内の精神科クリニックへココスルのチラシを掲示してもらおうよう依頼した。 また、7月17日、和泉市民生委員児童委員協議会にてココスル及び物販等についての周知を行った。 今後も、各部会の動向や必要性を見ながら、基幹相談支援センターが随時ココスル及び物販等の周知を行い、認知度の向上につなげていくものとする。	就労支援部会において、作業役務のチラシを作成し、チラシの広め方について検討を行った。（事業所への訪問者やイベント時に配布）授産製品チームでは、実際に製品を手にとってもらえるような工夫について検討され、1月より北部総合福祉会館内のショーケースで展示を開始している。ココスルについてもインフォーマルも含めた社会資源を見つけやすくするための機能追加を進めている。随時部会の取組みを中心に周知の機会を活用出来るようにしている。

	種別	意見	協議会における担当課の回答	課題解決に向けた方向性や取組内容	令和6年7月末時点での進捗	令和7年2月末時点での進捗
6	ココスルにおける情報掲載のあり方 【令和6年度第1回協議会】	【南委員】 利用者やご家族が事業所を探す際に、対応可能な内容や時間毎の空き状況といった細かな情報を必要としている。限られた情報だけではスムーズにサービスにつながりにくさがあるため、ココスルに掲載する情報について更に幅を広げて活用し易くしてほしい。（具体的には、居宅介護事業所の時間毎の空き状況）	ココスルの機能的には可能であり、非公開ではあるが試験的にページを作成済である。しかし、他の基本情報等と一緒になかなか事業所による更新がされていない現状があり、公開しても真に活用できる情報になりにくいというところは課題と感じている。	事業所側の意見も伺いながら、情報掲載のあり方については継続して検討していく。		
7	部会間の連動・連携について 【令和6年度第1回協議会】	【西中委員】 各部会において対象とする方に対しそれぞれが行っている支援や取組について、他部会と連動・協力していけば、必要な人に情報が届き支援につながったり、取組みに対する工夫などをそれぞれの視点でもちよることが出来、更につながれる人、活用できる人が増える。				協議会委員（相談支援部会・地域移行部会・地域生活支援拠点部会・就労支援部会の各代表、泉州北障害者就業・生活支援センター センター長）と意見交換会を実施した。資料4にて報告。

【副市長より前回の講評】

課題に対して、どこが主体となって解決に向けて議論していくのかをしっかりと整理し、進捗状況の見える化をしていく必要がある。
→意見まとめにて、これまでの意見や課題解決に向けた取組内容、進捗状況を記載し、見える化を図った。